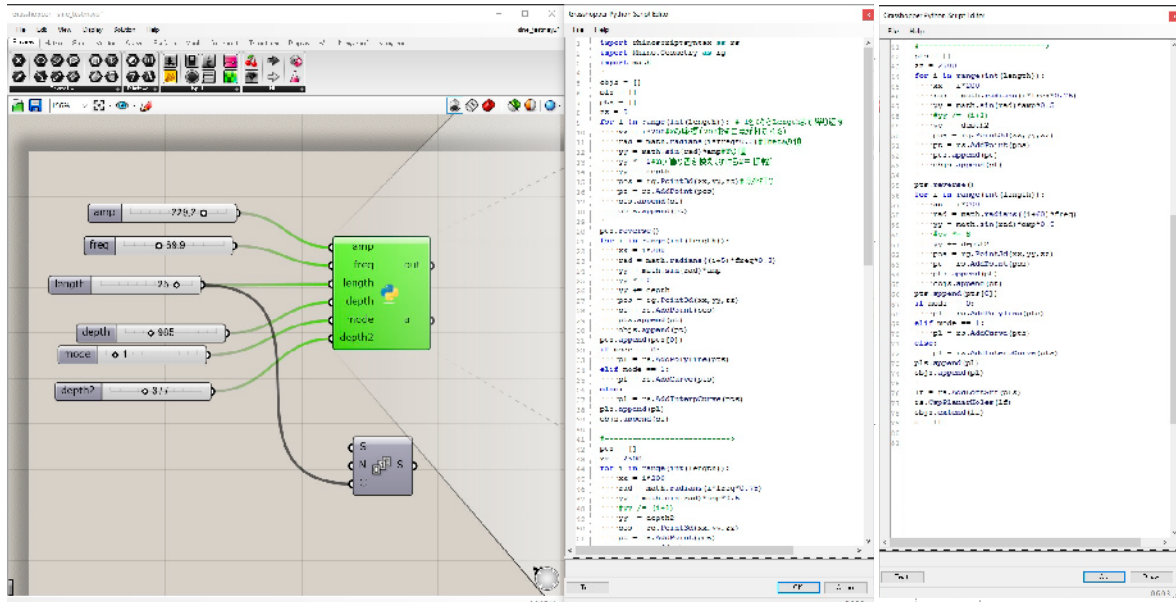
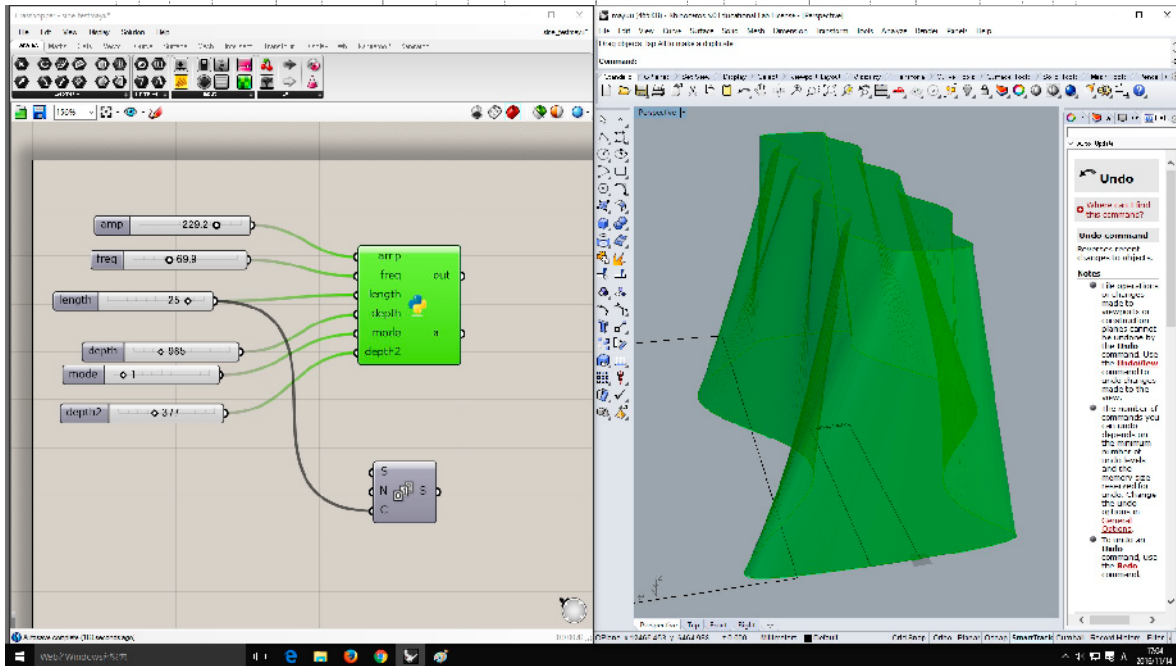
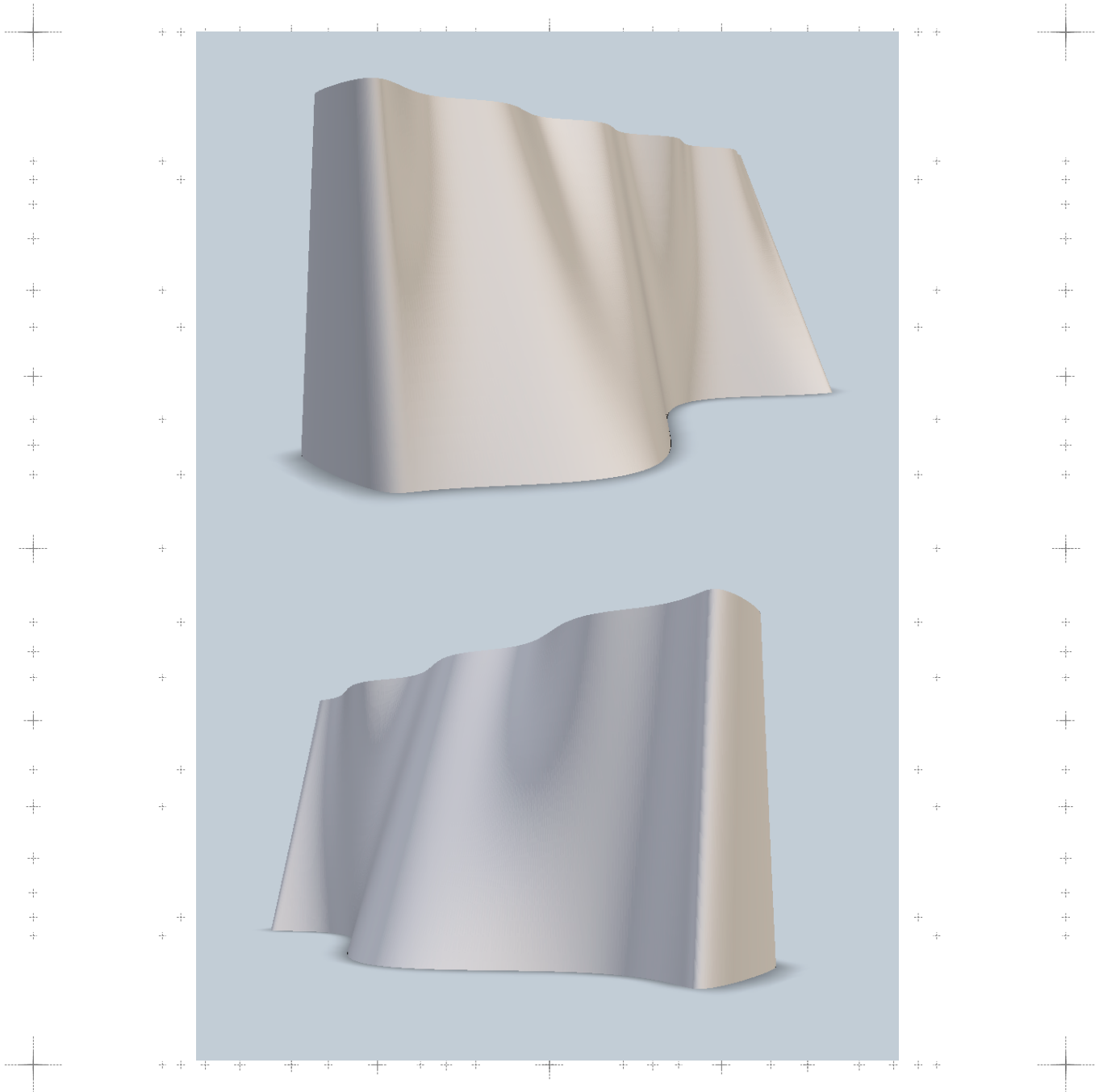




カーテンが風に膨らみなびく姿をイメージしながら形作りをしましたが、ワッフル構造で実際に出力してみると、とてもマッシュアップで有機的な堤防のようなものが出来上がりました。そのどっしりとした形態は屋内で使用する本棚というよりも、野外で使われている様子を連想させました。場所によっては奥行きがかなりあることから、クッションなどを入れて、そのクッションと本を手で芝生の上で読書を楽しむ風景をイメージしました。底面が大きく安定感があるので誰かが片側から押しても倒れる危険性もなく、もたれかかりながら本を読んだりすることも可能でしょう。



短辺で断面を切ったら、常にややいびつな台形となるように、原点から左右同じ距離をセットバックさせました。カーテンをイメージしているので、上面を作るサイン波は天井のレールに等間隔に繋がれていることから周期、振幅ともに小さく設定し、底面を作るサイン波は風でふんわりと大きくふくらんでいるので、周期、振幅ともに大きく、ゆるやかなカーブが出るように設定しました。また立体が左右非対称となるように周期を納得するかたちになるまでずらして調節し、カーブはきちんとコントロールされている印象になるAddCurveを選択しました。



1 2 3 DMake でワッフルを生成するまえの状態です。かなり理想形を作ることができました。しかし、カーテンを表現するにはやはり面が必要でした。

過去の課題作品や周りでみなさんが作っていた形態と自分が今回作ったものを比べてみると、なんだか自分のかたちが落ち着き過ぎていたように感じたことが非常に気になりました。次回は頭の中にある特定の形を目指すのではなく、予想したイメージの先にある形に出会いに行くような気持ちで作ってみたいと思います。